

平成 26 年度

病虫害発生予察特殊報 第 3 号

平成 27 年 1 月 27 日

茨城県病虫害防除所

TEL : 029-227-2445

シソモザイク病（仮称）の発生について

病 害 名 : シソモザイク病（仮称）
病原ウイルス名 : *Perilla mosaic virus* (PMoV)
発 生 作 物 : シソ（オオバ）

1. 発生確認の経過及び県外での発生状況

- (1) 平成 26 年 2 月上旬、鹿行地域のシソほ場（施設栽培）において、葉にモザイク症状を呈する株がみられた。独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センターに病原体の同定を依頼した結果、PMoV が検出され、シソモザイク病（仮称）であることが確認された。
- (2) 本病については、国内では平成 26 年に高知県および大分県で特殊報が発表されている。

2. 病徴

本病は葉に明瞭なモザイク症状を生じ、症状が進行すると葉脈が曲がって葉が奇形となる（写真 1）。症状は枝単位で見られる場合（写真 2）と株全体で見られる場合とがある。

3. 病原ウイルスの特徴と伝染方法

PMoV は *Emaravirus* 属に近いウイルスで、シソサビダニの吸汁によって媒介される。RT-PCR 法により診断ができる。種子伝染や汁液伝染、土壌伝染はしないと考えられているが、新種のウイルスであることから詳細は不明である。なお、シソサビダニの成虫は体長約 0.15mm で、肉眼での観察は困難である。

4. 防除対策

新種のウイルスであり、防除対策は明らかでないが、次のような対策が有効と考えられる。

- (1) 苗への感染を防ぐため、育苗は本圃とは別の場所で行う。
- (2) 発病株は見つけしだい抜き取り、埋却するなど適切に処理する。抜き取る際には、株にビニール袋をかぶせるなど、媒介虫であるシソサビダニが健全株に移らないよう十分注意する。



写真 1 新葉のモザイク症状と奇形



写真 2 発病枝